

子宮頸がん予防ワクチン

中1～高1年齢相当女性（全額助成）

高2・高3相当年齢女性（約半額助成）

が始まりました

任意予防接種の子宮頸がん予防ワクチンは、有効性・安全性が高いワクチンであり、定期接種化への検討がされているところです。

国は、これらのワクチン接種を促進するために、接種費用の経済的負担を軽減する緊急措置として中学1年生～高校1年生相当の女性に対して、助成を開始しました。

市でも、国の方針に基づき、**1月19日(水)から次のとおり助成が始まります。**

また、国の助成対象外となる高校2年生・3年生の年齢相当の女性には、接種費用の負担を軽減するため、市は独自で接種費用の約半額の助成をします。

いずれも対象者には個別に通知していますので、詳しくは通知文書をご覧ください。

●子宮頸がんワクチンと概要

対象年齢 助成額	中学1年生（13歳相当）～高校1年生（16歳相当）の女性：全額助成（無料） ※ 三重県内と新宮市の実施医療機関は無料です。 ※ <u>新宮市以外の県外医療機関は、接種前に手続きが必要です。</u> 必ずお問い合わせください。
	高校2年生（17歳相当）・高校3年生相当（18歳相当）の女性：約半額助成 (上限 8,000 円) ※医療機関で全額支払い、必要書類を持参して、接種した日の属する年度内（3月31日まで）に各市町担当窓口申請してください。 【必要書類】領収証、接種が証明できるもの（予防接種済証か母子健康手帳予防接種欄のコピー）、印鑑、振込み口座が分かるもの 申請書ダウンロード
効果	子宮頸がん（16・18型）予防
接種回数	3回 詳しくは最終ページの接種方法をご覧ください。
接種方法	① 1回目 ② 1か月後に2回目 ③ 1回目接種の6か月後に3回目
助成開始	平成23年1月19日（水）から接種した方

※対象者には個別通知していますので、詳しくは通知文書をご覧ください。

※接種を希望する医療機関には、ワクチンの準備上、必ず事前に予約をしてください。

ヒブワクチン 小児用肺炎球菌ワクチン

2か月から5歳未満の子どもに **全額助成**します

任意予防接種のヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンは、有効性・安全性が高いワクチンであり、定期接種化への検討がされているところです。

国は、これらのワクチン接種を促進するために、接種費用の経済的負担を軽減する緊急措置として助成を開始しました。

市でも、国の方針に基づき、**1月19日(水)から次のとおり接種費用の助成が始まります。**

●ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンと概要

対象年齢 助成額	2か月から5歳未満の子ども：全額助成（無料） ※ 三重県内と新宮市の実施医療機関は無料です。 ※ <u>新宮市以外の県外医療機関は、接種前に手続きが必要</u> ですので、必ずお問い合わせください。
効果	細菌性髄膜炎 等予防 ※ 2つのワクチン接種で、細菌性髄膜炎の約7～8割が予防できるといわれています。
接種回数	最高 4 回 ※ 接種を開始した月齢によって、接種回数が異なります。 詳しくは最終ページの接種方法をご覧ください。
助成開始	<u>平成23年1月19日(水)から接種した方</u>

※対象者には個別通知していますので、詳しくは通知文書をご覧ください。

※接種を希望する医療機関には、ワクチンの準備上、必ず事前に予約をしてください。

●接種できる医療機関：熊野市内中心 実施する予防接種の種類は○、実施しないものは×印

医療機関名	電話番号	子宮 頸がん	ヒブ	小児用 肺炎球菌
荒坂診療所	87-0626	○	○	○
井本医院	86-0016	○	○	○
多田医院	86-0011	○	○	○
原田医院	88-0035	○	○	○
大石医院	85-2043	○	○	○
協立内科外科医院	89-5035	○	○	○
和田医院	85-3668	○	○	○
尾辻内科クリニック	85-2021	○	○	○
大石産婦人科医院	89-1717	○	○	○
小山医院	89-2701	○	○	○
五郷診療所	83-0356	○	○	○
あすか診療所	84-0562	○	×	×
神川・育生診療所	82-0232	○	○	○
紀和診療所	97-0710	○	○	○
紀南病院	(05979) 2-1333	○	○	○

※ 紀南病院は、子宮頸がんワクチンの中学3年生までは小児科、高校1年生相当年齢以上は産婦人科で実施、ヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンは小児科で実施。

○三重県内と新宮市の実施医療機関は無料です。

○新宮市以外の県外医療機関は、接種前に手続きが必要です。必ずお問い合わせください。

●接種方法

ワクチン	接種方法		
子宮頸がん 予防 ワクチン	①1回目 ②1か月後に2回目 ③1回目接種の6か月後に3回目		
ヒブ ワクチン	接種開始年齢	接種回数	スケジュール
	2～6か月	4回	①1回目
			②4～8週間隔で2回目
			③4～8週間隔で3回目
			④3回目接種後、概ね1年後に4回目
	7～11か月	3回	①1回目
②4～8週間隔で2回目			
③2回目接種後、概ね1年後に3回目			
1～4歳	1回	①1回のみ	
小児用 肺炎球菌 ワクチン	接種開始年齢	接種回数	スケジュール
	2～6か月	4回	①1回目
			②27日間以上の間隔で2回目
			③27日間以上の間隔で3回目
			④12～15か月で4回目
	7～11か月	3回	①1回目
			②27日間以上の間隔で2回目
			③60日以上の間隔をあけて1歳以降に3回目
	1歳	2回	①1回目
			②60日以上の間隔で2回目
2～4歳	1回	①1回のみ	

ワクチン接種によって健康被害が発生した場合

ヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンを適正に使用したにもかかわらず発生した副反応などにより、入院が必要な程度の疾病や障害などが生じた場合は、医薬品医療機器総合機構法に基づく被害救済の対象となります。健康被害の内容、程度に応じて、薬事・食品衛生審議会での審議を経た後、医療費、医療手当、障害年金、遺族年金、遺族一時金などが支給されます。気になる症状が発生した場合は、医師にご相談ください。

～子宮頸がん予防ワクチンを接種される方へ～

子宮頸がん予防ワクチンの接種を実施するにあたって、ワクチンの効果や副反応、接種を受けるお子さんの健康状態をよく把握する必要があります。この説明文書をお読みになり、「子宮頸がん予防ワクチン予防接種予診票」にご記入の上、医師の診察を受けてください。

1. 子宮頸がんと発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）

- ①子宮頸がんは、子宮頸部（子宮の入り口）にできるがんで、20～30代で急増し、日本では年間約15,000人の女性が発症していると報告されています。子宮頸がんは、初期の段階では自覚症状がほとんどないため、しばしば発見が遅れてしまいます。がんが進行すると、不正出血や性交時の出血などがみられます。
- ②子宮頸がんは、発がん性HPVというウイルスの感染が原因で引き起こされる病気です。発がん性HPVは性行為により感染しますが、特別な人だけが感染するのではなく、多くの女性が一生のうちに一度は感染するごくありふれたウイルスです。
- ③発がん性HPVには15種類ほどのタイプがあり、その中でもHPV16型、18型は子宮頸がんから多くみつけるタイプです。日本人子宮頸がん患者の約60%からこの2種類の発がん性HPVがみつかっています。
- ④発がん性HPVは感染しても多くの場合、感染は一時的で、ウイルスは自然に排除されますが、感染した状態が長い間続くと、数年から十数年かけて前がん病変（がんになる前の異常な細胞）を経て子宮頸がんを発症することがあります。また、一度排除されたとしても繰り返し感染してしまいます。
- ⑤子宮頸がんは、発がん性HPVに感染してからがんになるまでの間に、子宮頸がん検診によって、前がん病変をみつけることが可能です。また、前がん病変やごく初期の子宮頸がんであれば、子宮頸部の一部を取り除く手術（円錐切除）で治療できます。

2. 発がん性HPV16型、18型の感染を防ぐワクチン

- ①このワクチンは、すべての発がん性HPVの感染を防ぐものではありませんが、子宮頸がんから多くみつけるHPV16型、18型の2つのタイプの発がん性HPVの感染を防ぐことができます。
- ②このワクチンを接種しても、HPV16型およびHPV18型以外の発がん性HPVの感染は予防できません。また、接種時に発がん性HPVに感染している人に対して、ウイルスを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたり、治療することはできません。
- ③上記のように、このワクチンの接種時にHPV16型や18型の発がん性HPVに感染している人に対して、十分な予防効果は期待できませんが、HPV16型と18型の両方に同時に感染している可能性は低く、HPV16型に感染している人でもHPV18型への予防効果が、HPV18型に感染している人でもHPV16型への予防効果が期待できます。また、発がん性HPVに感染している人に対して、このワクチンを接種しても症状の悪化などは報告されていません。
- ④ワクチンを接種した後も、ワクチンでは予防できない型の発がん性HPVによる病変を早期発見するために子宮頸がん検診の受診が必要です。市町が実施する公的子宮頸がん検診は、20歳以上を対象として2年に1回の受診間隔で実施されますので、定期的な受診しましょう。

3. 予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ②重い急性疾患にかかっている方
- ③このワクチンの成分（詳しくは医師にお尋ねください）によって、過敏症（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）をおこしたことがある方
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

4. 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ①血小板が少ない方や出血しやすい方
- ②心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ③過去に予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方
- ④過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ⑤過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑥妊婦あるいは妊娠している可能性のある方（3回の接種期間中を含む）
- ⑦現在、授乳中の方

5. ワクチンの効果について

- ①接種対象者は、10歳以上の女性です。
- ②このワクチンは、臨床試験により15～25歳の女性に対するHPV16型と18型の感染や、前がん病変の発症を予防する効果が確認されています。10～15歳の女兒、および26歳以上の女性においては予防効果に対するデータはありませんが、このワクチンを接種すると15～25歳の女性と同じように抗体ができることが確認されています。
- ③このワクチンの予防効果がいつまで続くかについては、現時点で成人女性では最長6.4年(平均では5.9年間)までこのワクチン接種による抗体と予防効果が続くことが確認されています(海外臨床試験成績)。抗体と効果の持続については現在も経過観察が続けられており、今後更なる延長が期待されています。なお、子宮頸がんの発症を予防するのに必要な抗体の量については現時点では明らかになっていません。**将来、このワクチンの追加接種が必要となる可能性もありますので、今後得られる情報にご留意ください。**
- ④子宮頸がんは多くの場合、発がん性HPVの持続的な感染や前がん病変の後に発症すると考えられており、これらを予防することにより、子宮頸がんを予防できると考えられています。子宮頸がんを発症するまでには発がん性HPVに感染後、数年から十数年かかります。臨床試験では、このワクチンにより発がん性HPVの持続的な感染および前がん病変が予防できることが確認されていますが、子宮頸がんに対する予防効果について確認されているわけではなく、海外で検討が続けられています。

6. ワクチンの接種について

- ①このワクチンは、3回接種しないと十分な効果が得られません。
- ②腕の筋肉に注射します。
- ③3回の接種の途中で妊娠した場合は、接種は継続できません。その後の接種について医師のご相談ください。

7. 接種後の症状について

- ①このワクチンは、効き目をよくするために2種類のアジュバント(免疫増強剤)が添加されています。1つはアルミニウム塩で、国内で市販されているワクチンによく使われています。もう1つはMPL(3-脱アシル化モノホスホリル脂質A)で、海外で市販されているほかのワクチンにも添加されていますが、国内では初めて添加される成分です
- ②ワクチン接種後に注射した部位が腫れたり痛むことがあります。
- ③注射した部分の痛みや腫れは、体内でウイルス感染に対して防御する仕組みが働くためにおこります。通常は数日間程度で治ります。
- ④海外で市販されているこのワクチンは、推定で220万人以上(3回接種で換算)に接種されています(2009年5月時点)。国内の臨床試験では約600名に接種されています。

8. ワクチンの主な副反応について

- ①このワクチン接種と関連性があると考えられた主な副反応について、以下のように報告されています。
 - 頻度 10%以上 かゆみ、注射部分の痛み・赤み・腫れ、胃腸症状(吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など)、筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労
 - 頻度 1～10%未満 発疹、じんましん、注射部分のしこり、めまい、発熱、上気道感染
 - 頻度 0.1～1%未満 注射部分のピリピリ感/ムズムズ感
 - 頻度不明 失神・血管迷走神経発作(息苦しい、息切れ、動悸、気を失うなど)
- ②重い副反応として、まれに、アナフィラキシー様症状(血管浮腫・じんましん・呼吸困難など)があらわれることがあります。
- ③接種後1週間は症状に注意し、強い痛みがある場合や痛みが長く続いている場合など、気になる症状があるときは医師にご相談ください。
- ④医薬品医療機器総合機構法に基づく救済制度について
このワクチンを適正に使用したにもかかわらず発生した副反応などにより、入院が必要な程度の疾病や障害などが生じた場合は、医薬品医療機器総合機構法に基づく被害救済の対象となります。健康被害の内容、程度に応じて、薬事・食品衛生審議会での審議を経た後、医療費、医療手当、障害年金、遺族年金、遺族一時金などが支給されます。気になる症状が発生した場合は、医師にご相談ください。

9. ワクチン接種後の注意

- ①接種後に、重いアレルギー症状がおこることがありますので、接種後はすぐに帰宅せず、少なくとも30分間は安静にしてください。
- ②接種後は、接種部位を軽くおさえ、揉まないようにしてください。
- ③接種後は、接種部位を清潔に保ちましょう。
- ④接種後丸1日は、過度な運動は控えましょう。

⑤接種当日の入浴は問題ありません。

ヒブワクチンを接種される方へ

ヒブワクチンの接種を実施するにあたって、ワクチンの効果や副反応、接種を受けるお子さんの健康状態をよく把握する必要があります。この説明文書をお読みになり、「ヒブワクチン予防接種予診票」にご記入の上、医師の診察を受けてください。

1. 乳幼児の細菌性髄膜炎とヒブ（インフルエンザ菌b型）

- ①体の中で最も大切な部分といえる脳や脊髄を包んでいる膜を髄膜といい、この髄膜に細菌やウイルスが感染して炎症が起こる病気が髄膜炎です。髄膜炎には、細菌が原因の「細菌性髄膜炎」と細菌以外（ウイルスなど）が原因の「無菌性髄膜炎」がありますが、治療後の経過が悪く後遺症が残るなどのため特に問題となるのが「細菌性髄膜炎」です。細菌性髄膜炎の初期症状は、発熱や嘔吐、不機嫌、けいれんなどで、風邪などの他の病気の症状と似ているため、早期に診断することはとても難しい病気です。
- ②乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、原因の半分以上を占めているのが「インフルエンザ菌b型」という細菌で、略して「ヒブ」と呼ばれています。ヒブは冬に流行するインフルエンザ（流行性感冒）の原因である「インフルエンザウイルス」とは全く別のものです。また、他の多くの細菌やウイルスとは異なり、ヒブは乳幼児に感染しても抗体（免疫）ができず、繰り返し感染することがあります。
- ③ヒブによる細菌性髄膜炎（ヒブ髄膜炎）は5歳未満の乳幼児がかかりやすく、特に生後3ヵ月から2歳になるまではかかりやすいので注意が必要です。日本の年間患者数は少なくとも600人と報告されており、5歳になるまでに2000人に1人の乳幼児がヒブ髄膜炎にかかっていることとなります。
- ④ヒブ髄膜炎にかかると1ヵ月程度入院と抗生物質による治療が必要となりますが、治療を受けても約5%（年間約30人）の乳幼児が死亡し、約25%（年間約150人）に発育障害（知能障害など）や聴力障害、てんかんなどの後遺症が残ります。さらに最近では抗生物質の効かない菌（耐性菌）も増えてきており、治療が困難になってきています。
- ⑤その他にもヒブは、肺炎、喉頭蓋炎、敗血症などの重篤な全身感染症を引き起こします。

2. ヒブによる感染症を予防するヒブワクチン

- ①接種年齢は、2ヵ月齢以上になれば受けられます。望ましい接種スケジュールは、初回免疫として生後2ヵ月から7ヵ月になるまでに接種を開始し、4～8週間間隔で3回、追加免疫として3回目の接種から約1年後に1回の計4回接種します。
- ②ヒブワクチンは、4回の接種を受けた人のほぼ100%に抗体（免疫）ができ、ヒブ感染症に対する高い予防効果が認められています。
- ③ヒブワクチンの接種後に他のワクチン接種でもみられるのと同様の副反応がみられますが、通常は一時的なもので数日間で消失します。最も多くみられるのは接種部位の発赤（赤み）や腫脹（はれ）です。また発熱が接種された人の数%におこります。
重い副反応として、非常にまれですが、海外で次のような副反応が報告されています。（1）ショック・アナフィラキシー様症状（じんましん・呼吸困難など）、（2）けいれん（熱性けいれん含む）、（3）血小板減少性紫斑病。
- ④このワクチンは、製造の初期段階に、ウシの成分（フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国産ウシの血液および心臓由来成分）が使用されていますが、その後の精製工程を経て、製品化されています。また、このワクチンはすでに世界100カ国以上で使用されており、発売開始からの14年間に約1億500万回接種されていますが、このワクチンの接種が原因でTSE（伝達性海綿状脳症）にかかったという報告は1例もありません。したがって、理論上のリスクは否定できないものの、このワクチンを接種された人がTSEにかかる危険性はほとんどないものと考えられます。

3. 予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ②重い急性疾患にかかっている方
- ③このワクチンの成分または破傷風トキソイドによってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

4. 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ②過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑤このワクチンの成分または破傷風トキソイドに対してアレルギーをおこすおそれのある方

5. ワクチン接種後の注意

- ①接種後に、重いアレルギー症状がおこることがありますので、接種後はすぐに帰宅せず、少なくとも30分間は安静にしてください。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、6日間以上の間隔をあける必要があります。ただし、このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能ですので、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
- ⑤接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ⑥接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

小児用肺炎球菌ワクチンを接種される方へ

小児用肺炎球菌ワクチンの接種を実施するにあたって、ワクチンの効果や副反応、接種を受けるお子さんの健康状態をよく把握する必要があります。この説明文書をお読みになり、「小児用肺炎球菌ワクチン予防接種予診票」にご記入の上、医師の診察を受けてください。

1. このワクチンの効果と副反応

小児用肺炎球菌ワクチンは、生後2ヵ月齢以上9歳以下のお子さんに接種することができるワクチンです。このワクチンの接種によって、肺炎球菌による重い感染症(細菌性髄膜炎、菌血症など)を予防することが期待されます。

小児用肺炎球菌ワクチンの国内臨床試験でみられた副反応は、注射部位の症状(赤み、硬結、腫れ、痛みなど)、発熱(37.5℃以上)などです。

ただし、非常にまれですが、海外で次のような副反応が報告されています。(1)ショック、アナフィラキシー様反応(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと)、(2)けいれん。このような症状が認められたり、疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。

2. 予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱している方(通常は37.5℃を超える場合)
- ②重い急性疾患にかかっている方
- ③このワクチンの成分またはジフテリアトキソイドによってアナフィラキシー(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと)をおこしたことがある方
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

3. 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ②過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑤このワクチンの成分またはジフテリアトキソイドに対してアレルギーをおこすおそれのある方

4. ワクチン接種後の注意

- ①接種後に、重いアレルギー症状がおこることがありますので、接種後はすぐに帰宅せず、少なくとも30分間は安静にしてください。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、6日間以上の間隔をあける必要があります。ただし、このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能ですので、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
- ⑤接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ⑥接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

問い合わせ先：

熊野市健康・長寿課 保健予防第1係

☎0597-89-3113